旺文社版　新CEFR対照表（2024年3月版）

2024年3月
(株)旺文社　教育情報センター

CEFR	各外検のスコア									
	実用英語技能検定（従来型、S-CBT、S-Interview共通）		TEAP	TEAP CBT	GTEC®		TOEFL iBT®	TOEIC® L&R ／TOEIC® S&W	IELTS™	ケンブリッジ英語検定
	CSE2.0 スコア	各級のテストで CEFRの判定が可能な範囲				各テストで CEFRの判定が 可能な範囲				各テストで CEFRの判定が 可能な範囲
C2		各級で上限スコアを上回ってもCEFR判定は変わらない（例：2級で2300以上でもB1）。下限スコアを下回るとCEFR判定は出ない。		2024年度で終了。		2023年度より CEFRスコア変更。	120 | 114	スコアは各技能を単純合計したもの（2018年文科省版はS&Wを2.5倍）。	9.0 | 8.5	230 | 200
C1	3299 | 2600	級の合格スコア 2630 / 1級 3299 ↑ ↓ 2304	400 | 375	800	1400 | 1350	1400	113 | 95	1390 | 1305 （L490、R455、S180、W180）	8.0 | 7.0	199 | 180
B2	2599 | 2300	2304 / 準1級 2599 ↑ ↓ 1980	374 | 309	795 | 600	1349 | 1180	検定版 1280	94 | 72	1300 | 1095 （L400、R385、S160、W150）	6.5 | 5.5	179 | 160
B1	2299 | 1950	1980 / 2級 2299 ↑ ↓ 1728 / 2025年度新設。	308 | 225	595 | 420	1179 | 930	1080	71 | 42	1090 | 790 （L275、R275、S120、W120）	5.0 | 4.0	159 | 140
A2	1949 | 1700	1829 / 準2級プラス 1949 ↑ ↓ 1550 / 1728 / 準2級 1949 ↑ ↓ 1400	224 | 135	415 | 235	929 | 680	840		785 | 385 （L110、R115、S90、W70）		139 | 120
A1	1699 | 1400	1456 / 3級 1699 ↑ ↓ 1400			679 | 260	260		380 | 200 （L60、R60、S50、W30）		119 | 100

GTEC® 各テスト：Core 260 ↑ 840；Basic 260 ↑ 1080；Advanced 260 ↑ 1280；CBT 260 ↑ 1400

ケンブリッジ英語検定 各テスト：C2 Proficiency 180 ↑ 230；C1 Advanced 160 ↑ 210；B2 First 140 ↑ 190；B1 Preliminary 120 ↑ 170；A2 Key 100 ↑ 150

各テストの下限を下回るとCEFR判定が出ない。

無断引用、転載を禁ず。

※各検定のスコアは4技能のもの。各実施団体HPより作成。今後変更もありうる。

(c)2024 旺文社 教育情報センター

【大学向け】新CEFR対照表

外検入試のスコア設定用、最新CEFR！

旺文社 教育情報センター 2024 年 3 月 11 日

大学が外部検定利用入試（外検入試）を設計するうえで、ないと困るのが CEFR 対照表だ。しかしこの対照表、2018 年 3 月に文科省が公表して以来、今後の予定も含めて各外検の変更がいくつかあるが、更新される気配はない。そこで旺文社 教育情報センターでは独自に「新 CEFR 対照表」を作成した。

●各外検の変更点、留意事項

2018 年の文科省版 CEFR 対照表からいくつかの外検で変更がある。ここでは本表の留意点も含めて見ておこう。

【英検®】

英検は 2 級と準 2 級の間に新設級「準 2 級プラス」が導入される。実施は 1 年後の 2025 年度から。そのため入試利用は 2026 年入試からだ。大学は次の次の入試要項で記載を忘れないようにしたい。

【TEAP CBT】

TEAP CBT は 2024 度で終了となる（TEAP は継続）。成績票は 2025 年度末まで発行される。外検入試で外検の有効期限を「2 年以内」などに設定している大学は、その期限にあわせて入試要項に残しておくことが必要だ。

【GTEC®】

GTEC は 2023 年度から CEFR 判定を出すスコア（閾値スコア）を変更。B2 以下のすべてのレベルでスコアが引き下げられた。本来ならば 2024 年入試から各大学の入試要項にはこれに即したスコアが掲載されているべきだが、旧スコアと思われる大学も非常に多い。大学は注意されたい。

【TOEIC®】

TOEIC は技能別に CEFR スコアが設定されていて 4 技能合計はわからない。そのため表では便宜上、単純合計したスコアを記載した。ただしそれだと L&R の比重が大きい※1。そのため 2018 年の文科省版 CEFR 対照表では、S&W のスコアを 2.5 倍する手法が取られていた。しかし最近の各大学の入試要項では単純合計も多く見られ※2、本表もそれに準じた。偏りの対策として合計とあわせて L&R、S&W 別のスコアを掲載している大学もある※3。

(c)2024 旺文社 教育情報センター

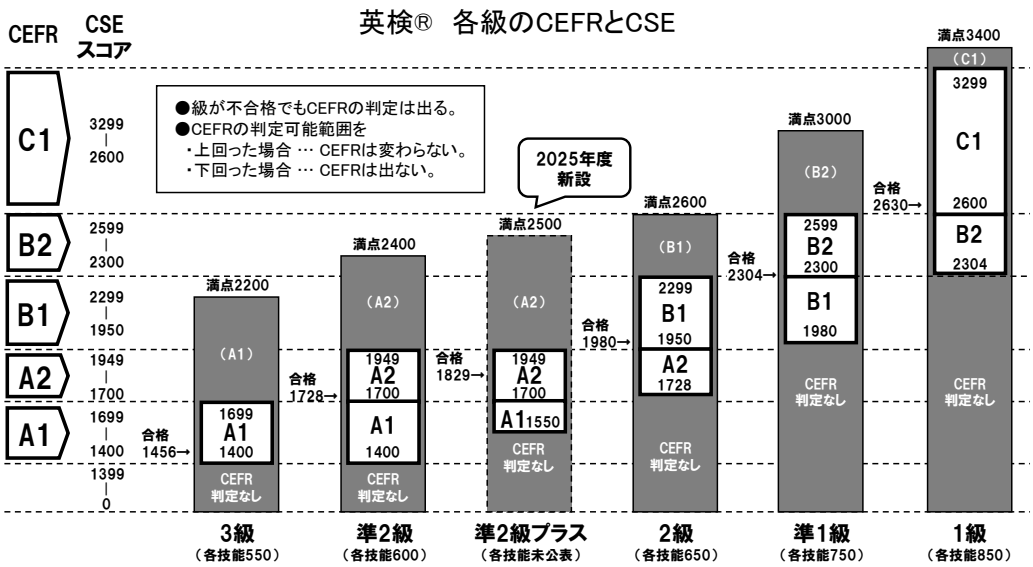
※1.たとえば各技能の B1 スコアは「L＝275」「R＝275」「S＝120」「W＝120」で L&R の比重が大きい。
※2.現在も 2.5 倍している大学は多い。
※3.例「出願資格＝790（ただし L&R＝550、S&W＝240 以上）」。

●英検®の注意点（入試要項での記載の仕方）

英検はほとんどの大学で利用でき、受験生も 9 割が利用している※。しかし各大学の入試要項を見ると、記載が不十分な大学が多い。ここではその注意点を見ていこう。

※2024 年 2 月 20 日記事「外部検定利用入試 2024 年は 462 大学！」参照。

その前にまず英検の CEFR と CSE について整理しておく。冒頭の新 CEFR 対照表は各級のテストで CEFR 判定が出る範囲だけ記載したが、0 点～満点の全体は次のようになる。



【例】上記を踏まえ、たとえばある大学の入試要項で以下のような記載があったとしよう。

出願資格

	実用英語技能検定	TEAP	TEAP CBT	IELTS™	TOEIC® L&R/S&W	TOEFL iBT®	GTEC®	ケンブリッジ英語検定
CEFR B1	2級、1980	225	420	4.0	790	42	930	140

この大学は出願資格が B1 で、各外検のスコアを一覧で示している。同じような大学は非常に多い。ちなみに「1980」は英検の CSE スコアのことだ。【例】の大学は何が問題か。上図をもとに見ていこう。

【問題点①】「かつ」？「または」？

「2 級合格かつ 1980」なのか「2 級合格または 1980」なのかがわからない。

2 級の合格ラインは 1980。つまり「かつ」の場合はわざわざ 1980 と書く必要がない※。そのため「または」の意味かと思われるが、正解はわからない。

(c)2024 旺文社 教育情報センター

なお「または」の場合は 2 級合格だけではなく、何級のテストでもいいので（B1 が絶対条件の場合は 2 級か準 1 級）1980 を超えていれば出願可ということになる。

※実際には例外もある。英検S-CBTは4技能を1日で受けられるが、従来型と同様にRLWで1次、Sで2次、それぞれで合否判定がなされる仕組みになっている。仮にSが高得点で4技能合計では1980を超えたとしても、1次の合格基準を満たさずに不合格となるケースもありうる。ただしこのケースは頻繁にあるとは考え難く、そこまで入試要項で規定する必要はないと思われる。

【問題点②】「B1＝2 級合格」ではない

「B1 のライン＝1950」、「2 級の合格ライン＝1980」でイコールではない。たとえば中間の 1960 だった場合、2 級は不合格だが CEFR は B1 の判定が出る。こうした受験生に出願資格があるのかどうかがわからない。

【問題点③】準 1 級が不合格でも B1

準 1 級を受けた場合、不合格でも 1980 以上なら B1 の判定が出る。②と同様、この受験生に出願資格はあるのか。

結局、【例】の大学は出願資格に「B1」「2 級」「1980」の 3 つの要素があり、それぞれイコールのようでイコールでなく、また、3 つのすべてを満たさなければいけないのか 1 つでいいのかわからないため、受験生は混乱してしまう。

【改善案】

いっそのこと CEFR は入試要項から削除した方がスッキリする。

出願資格

実用英語技能検定	TEAP	TEAP CBT	IELTS™	TOEIC® L&R/S&W	TOEFL iBT®	GTEC®	ケンブリッジ英語検定
CSE1980 ※	225	420	4.0	790	42	930	140

※2級以上の試験に限る。

上記のように「CSE1980」だけにすれば、受験級やその合格・不合格に関わりなく出願できることになり単純明快だ。逆に受験級を制限したい（たとえば簡単な級を受けて 1980 を取るのはナシ）のであれば表下に注釈を入れて受験級を指定すればよい。

ちなみに「CSE1980」ではなく「2 級」としても良い。むしろ級で表記した方が受験生にはわかりやすい。ただし級合格を求めると「本当はその実力があるのに、もっと上の級にチャレンジして不合格だった受験生」を取りこぼすことになる。つまり「2 級」と表記すると「（2 級を取らずに）準 1 級を受けて不合格だった受験生」は出願できないことになる。

(c)2024 旺文社 教育情報センター

●CEFR 対照表とは何だったか

CEFR 対照表は 2021 年の入試改革に向けて文科省が 2018 年 3 月に発表したものだ。入試改革の最大の目玉は外検入試で、その拡大策の中心が成績提供システムだった。これは大学入試センターが各外検の成績を一元的に集約して大学に提供するシステムだ。

このシステムにはどの外検でも参加できるわけではなく、4 技能テストとしての妥当性や信頼度、運営体制などについて文科省が確認し、認められた外検（いわゆる「認定試験」）が参加可能となった。その過程で各外検のスコアと CEFR 判定の妥当性についても確認がなされ、CEFR 対照表が作成された。成績提供システムでは外検のスコアとあわせて CEFR 判定も大学に提供されることになっていた。

ところが突然、2019 年 11 月に成績提供システムが頓挫。CEFR 対照表もその巻き添えとなった。成績提供システムは文科大臣から中止の発表があったが、CEFR 対照表はその後の扱いについて文科省からの発表はなかった。いったん文科省名で出してしまった以上、今後各外検が変更を行ってきた場合に更新されるのか、されないとしたら外検団体が発表した新しいスコア、文科省お墨付きの古いスコア、どちらを信用していいのかわからなくなってしまった。

また、当時は CEFR 対照表そのものにも批判があった。たとえば B1 は英検だと CSE1950、TOEFL iBT だと 42 になるが、この 2 つのスコアは異なるテストなのに同じ英語力と言えるのか、というものだ。

国の外検入試のトーンダウンあり、CEFR 対照表への批判もありで、CEFR 対照表は宙吊り状態になってしまった。実際、スコアの変更を行う外検も出てきたが、更新される気配はない。今や管理者がいるのかどうかもわからない「荒れた敷地」になりつつある。

それでも大学には CEFR 対照表が必要だ。各大学の入試要項を見ると、外検の変更に対応できていないだけでなく、明らかにミスと思われるスコアも散見される。今回作成した旺文社版 新 CEFR 対照表でまずは自校の次年度入試要項をご確認いただきたい。

（2024.03 石井）

(c)2024 旺文社 教育情報センター